

## 区政会議 こども青少年部会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方

番号	意見	当日の回答	区役所の対応・考え方	担当課
1	特別支援教育センターについては、配置対象は、発達障がいがある子どもや重度のADHDの子どもなど、対象者が限定されているようだが、柔軟に運用できないか。	教育委員会が配置している特別支援教育センター以外に、区独自に課題のある子どもに対するボランティアセンターを配置しており、会計年度任用職員でもある特別支援教育センターでは対応しにくい部分について、学校とも連携して柔軟に対応しています。	区独自に、柔軟に対応できるボランティアセンターを配置しています。	協働まちづくり推進課
2	学校ボランティアについては、区でセンターをストックできるか。また、学校だけでボランティアセンターを見つけることが難しいところは、区で人材バンクを作っているところもあるようだが、どうか。	学校が、それぞれのネットワークを元に、状況に応じた人材を見極めながら確保している側面もあり、現状では各学校にお願いしている状況です。  人材の確保は、24区でも課題になっています。大学が区内にある区の場合は、大学で募集してもらっているところもあります。一方で、距離などの個別のマッチングの問題もあります。各学校の卒業生や、個人的なつながり、大学とのつながりなど、あらゆるネットワークを通じた人材確保の方策を、今後、検討してまいります。	港区では、学校ボランティアのセンター募集について、次の2本柱で取り組んでいますが、今後、どのような形で人材確保に協力できるか、検討してまいります。 ①各小中学校が、学校ごとのネットワークを使って人材を募集する。 ②区のHPやチラシを使っての広報を通じて、学校へ人材を紹介する。	協働まちづくり推進課
3	学校のボランティアセンターについて、区が予算を出して、早急に人材バンクをつくるわけにはいかないのか。	特別支援教育センターについては教育委員会の制度であり、この外、区で別途、予算を用意して独自のボランティアセンターを配置できることとしています。 区のボランティア事業については、区は予算面での支援を行っていますが、個別的人材については各校で、各校の事情に沿った方を選んでいます。いずれにしても、人材の確保につながる仕組みを検討してまいります。		協働まちづくり推進課
4	コロナ禍の学校運営について。今年度の学校は6月にスタートした。市長によるリモート学習を進めることだが、現状は感染者数も減り、今は授業が行われているが、オンラインピック開催によって日本での感染が蔓延し、再び学校に行けなくなると、リモート学習が必要になると思うが、今、どうなっているか。	中学校では、1人1台PCが使える。授業などが受けられるよう工事もし、環境が整ってきた。授業でも使っている。家で学習する環境もできた。教育委員会は力を入れてやっているので、動きが一気に進んでいます。 例えば、全校集会や、ドリルを使った個別学習など実際に進んできています。 4月以降、PCを家に持ち帰られるようになるなどの条件が整理されれば、さらに進むものと思っています。	同左	協働まちづくり推進課
5	成人式について。娘をもつ家庭は着付けの予約や髪のセットの予約に時間もかかるので、早めに回答をもらえたら、保護者は助かる。冬の着物が着られる間に実施をしてほしい。合わせの着物なので、6月からは着物が変わる。だから、美容室の関係もあるので、早めに結論を出してやって欲しい。	【要望のため、回答なし】	港区では、令和3年1月10日から延期していた「成人の日記念のつどい」を5月2日（日）10時よりアートホテル大阪ベイタワーで実施する予定です。 ただし、まん延防止等重点措置や感染状況を踏まえながら、概ね1週間前に、改めて実施の可否について実行委員会にも諮って判断してまいり予定です。	協働まちづくり推進課
6	成人の祝賀事業を「全市で一律にやろうとしており、各区ではできない」ような話を聞いた。 一方で、区独自に実施しようとしている区もあるようだが、どうなのか。	「成人の日記念のつどい」について、昨日（3月3日）の市会代表質問でも質疑があり市長は「各区の日程等、事情に応じて適切なタイミングを見極めればいい」と答弁されており、あくまで各区の事情に応じてということです。	また、区の「成人の日記念のつどい」とは別に、USJが開業20周年記念の地域貢献事業として「成人の日記念のつどい」が延期となった新成人25,000人を対象にUSJにおいて祝賀事業を開催する予定です。こちらは、詳細が決まり次第HP等で公表します。	協働まちづくり推進課
7	学校配置の適正化について、少人数の小学校は統合することになるとした場合、仮に港晴小と築港小が合併すると、子どもにとって、あの距離を歩けるのか。	港晴小と築港小の統廃合については、物理的な問題と地域の連携の問題がございます。AかBかという2択の問題ではないと認識しています。前から学級数について問題はあり、条例ができたので、進めていかないといけない問題ですが、地域とも協力しながら進めてまいりたいと考えています。	同左	協働まちづくり推進課
6	築港小と港晴小の統合される話だが、築港小と築港中が小中一貫校になり、例えば英語に特化して、全生徒が英会話ができるようになるような魅力ある学校づくりをしたら、そのエリアに引っ越しても、みんな行かせたいと思うだろう。 これからそういうことも必要なのではないか。	まず、港区は非常にポテンシャルが上がっており、万博などのプロジェクトによって人口がどう変動するかということを見極める必要があります。 そのうえで、プロジェクト等によっても人口が増えなかった場合は、委員の仰るように「単純に統合するのではなく魅力ある学校づくりが必要」と考えます。貴重なご意見、ありがとうございます。 ただし、これには、地域の皆様方のご意見を聞きながら進めていく必要がありますので、先ほどいただいたご意見を始め地域の皆様のご意見を聞きながら進めてまいります。	同左	協働まちづくり推進課
7	学校選択制について。例えば年間の入学者が15人という学校が、選択制によって5人になる、という可能性がある。その学校はどうなるのか。距離の問題もある。そういうことも起こり得るという心配をしている。	選択制では、港区が一番影響を受けていると感じています。特に港晴が影響を受けていると思っており、この問題について、全市の場でも意見は伝えています。大きいテーマなので、慎重に考えていかないといけないという問題意識をもっています。	学校選択制の課題については、この制度がよりよい制度となるよう、教育委員会では検証を行うこととしており、そのための調査・分析を今年度、行われると聞いています。 区としても、この調査・分析の結果を踏まえ、意見を伝えたいと考えています。	協働まちづくり推進課